



舟屋には棧橋も設けられ、そこに水上バスが接岸した

オルタナティブ・ツーリズムの現場から

観光都市への飛躍は、 大阪の“主軸”再発見から

ナビゲーター
NPO法人もうひとつの旅クラブ
理事長

李 有師
Lee Yuu-ji

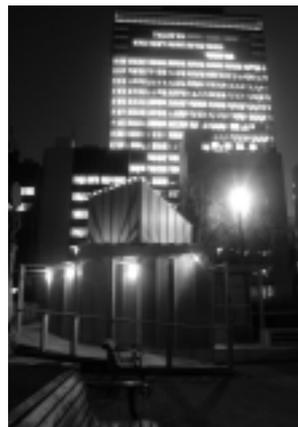
NPO法人もうひとつの旅クラブ(大阪市北区)

中之島に「舟屋」を開設し、
水都の魅力を発信

昨年一〇月八日から一か月間にわたって、大
阪・中之島のバラ園に「舟屋」を設け、全国各地
からの交流の歴史が再現された。

「中之島 舟屋プロジェクト」と名付けられた、
このイベントを企画・運営したのがNPO法人も
うひとつの旅クラブだ。

「大阪の観光といっても、多くの人はお決まりの
ような観光スポットを点々と訪れるだけ。大阪と
いう都市のもつ多彩な魅力には目が向けられない。
そのひとつの理由は、大阪といつまちの骨格になる
「主軸」が見えにくいからではないか。そこで、私た



夜間の「舟屋」はライトアップされ、土佐堀川沿いのビルの明かりとマッチして幻想的な雰囲気を醸



簡易な造りだが、魅力的な造形が好評だった「舟屋」



大川には安藤忠雄氏が設計した新しい橋が2006年に開通し、さらに魅力が増す



大川から眺める風景は、大阪のまた違った魅力を感じさせる



なにわ野菜の展示に舟屋もほっこり



小豆島の紙芝居に興味津々

ちは、南北軸の御堂筋や堺筋と同様に東西軸の中之島に着目し、これらが交錯する点を活性化させることで、大阪に点在する多くの魅力を結びつけようと考えました。この舟屋プロジェクトはその第一歩で東西の水陸両用の軸線を再発見しようとしたものです」と代表の李有師さんは説明する。

中之島といえば、『市役所の事件ばかり』と言われるが、「それでは、大阪の本当の姿を何も表していません」と李さん。かつての中之島は、人々が憧れのまなざしを向けるエリアだった。特に水辺周辺には諸藩の蔵屋敷が置かれ、日本の交流文化の中心地として、全国から人々が訪れ、その息吹を持ち込んだ。その証拠に、各地の地名が大阪に数多く残っている。しかし今では、そんなこともすっかり忘れ去られてしまっている。

「じっくり観て回れば、このまちの中にも、もっともっと意味深く興味深いものがたくさんあるのに、残念ながらそれらが顧みられていません」

今回の舟屋プロジェクトは、京阪電車の中之島新線の建設と、それに伴う周辺整備に対し、地域の新しい魅力づくりを進めようとする一助になればとの思いからだ。一応、ハードは整備されますが、それらを活かすためのソフトづくりは全く手がつけられていない。その中継装置として舟屋を機能させてみたかったわけだ。

NPOのメンバーは総勢22名と多くはないが、これからも、どんどん新しい提案を実行していきたいと語る。中之島の魅力を再確認していくことが、ぎゅと観光都市・大阪への第一歩につながっていくことだろう。もうひとつの旅クラブの今後の活動に期待が広がる。

(文責:CEL編集室)

CEL

NPO法人 もうひとつの旅クラブ

【連絡先】

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-19-16

木田鹿ビル4C

URL <http://www.tabiclub.org/>



舟屋が設置されている期間、秋のバラが美しく咲いてい